

— 山行計画 —

夏山合宿(剣岳周辺)

期日 八月一日(金)〜五日(木)
C・L 小堤 仁 〒180-03 東久留米市南沢二の六の七
S・L 塚田 信正
天野 一郎
申込み 七月六日まで厳守のこと。
備考 新人は縦走・会費は定着で一本性をもたせて行います。
準備会を七月二十七日(日)会長宅にて行ないます。

ヒュッテ整備

期日 八月一〇日(日)
L 渡辺 完治 〒191 日野市南平一四八二
申込み 八月三日まで
備考 ペンキ塗りと清掃を行います。自分たちのヒュッテです。できる限り参加しましょう。

— 山行報告 —

1665 毛勝三山(五月合宿)

期日 五月一日(木)〜四日(日)
参加者 小川(正)CL 藤井SL 出口(正) 渡辺 永井
以上五名

☆一日(木) 晴れ 魚津―第二大明神尾根一六〇〇米
前夜、満員の急行越前にて上野を出発。魚津へ着きバスを待っている。前日ブロッコ雪崩にやられ負傷者を出したというパーティに会う。始発バスで前平沢まで行き、そこでつまくタフシーを拾い南又谷分岐点から雪の残る林道を歩く。大明神尾根 第二大明神尾根のどちらも、末端は雪がなく、第二大明神尾根末端から橋をもう一つ渡り返した所から枝尾根に取付く。尾根上は三米位のブッシュのヤブコギに苦しめられる。ニピッチで尾根の左側から雪がついてきて、ヤブコギから解放される。薄曇りとなったが暑く、またもや永井がバテバテとなる。スローペースながら何とか音を

集會計画

委員会 七月二日(水) 国立事務所
係 島影
第一集会 七月九日(水) 小金井婦人会館
事業部会 七月十四日(月) 新宿東口喫茶西武
山話会 七月二十三日(水) 国立公民館
係 塚田
※各集会所とも一九時開催です。時間を大切にすゝる為にも定刻に集まりましょう。なわ海外遠征研究会は一時休会とします。
事業部会はオプザーバー歓迎します。

あげずに、一五五〇米地点のながめのよい小平地に出で、そこにツエルトを張った。(永井 正敏)
タイム 南又谷分岐7・40―尾根取付点9・05―雪面上10・45―11・10―一五五〇米地点14・50
☆二日(金) 晴 一六〇〇米―釜谷山下

今日は主稜線に出られる日だ。天気はよし、ハリキッテ出発する。左手からの尾根がせばまって広い大明神の山頂に出る。大明神第一尾根からのかすかなトレールがある。ひと下りでいよいよ毛勝山への登りだ。雪庇が大明神側にいまにもくずれ落ちそうに傾いている。渡辺がトップで釜谷側を登る。下をむいている顔に雪の反射が強く当り首すじには太陽がじりじり焼けてく。稜線上釜谷山に向う何人かの姿がみえる。サブなのかずいぶん早いピッチだ。山頂はすべ上なのになかなか歩が進まない。傾斜がゆるくなりやっど山頂に出る。ほっとひといきののち見まわすと黒い剣岳が間近にそびえている。ここで初めて人に逢う。空身で三角点がある北峰を往復する。そうそうに引返しコーヒ―をたっぴり飲み、やわらかくなった雪に注意しながら釜谷山に向う。山頂は雪が消え岩が出ていて又猫又

谷側の方はハイマツも出ている。猫又山の方からきたサブの一人ぐらゐの人たちに行きあう。下からみた入道みだいた。釜谷山を若干、下った所でよい場所をみつけ雪洞を掘る。(出口 久子)

タイム 葛管地 6・05 17・00 15 大明神山 8・20 8・40 1 南峰 11・55 12・20 1 毛勝山頂 12・35 1 40 1 南峰 12・55 13・20 1 釜谷山 14・00 14・15 1 雪洞 14・35

☆三日(土) 雨 猫又岳 1 赤谷山 1 馬場島

二日間続いた好天も今日から雨。雪洞の中で身支度を整えて出発。猫又岳までは所々雪庇が切れた稜線上右側に悪い所も無く、ただひたすら歩くのみ。山頂より東芦見尾根に少し下り、傾斜のゆるい雪原をトレールを頼りに下る。この濃いガスの中でもトレールが発見出来なかつたなら、下降は困難なものとなつたであらう。尾根の傾斜が強くなると、次第にやせて来て雪庇が左右に切れ落ち、ルートを見失ないがちなになる。岩場を右側から、からみ気味に下って最低鞍部に立つ。積雪その他の条件を検討の結果、赤谷尾根下降の予定を変更し、赤谷山を往復しブナクラ谷を下

降する事にした。

期待していた赤谷山頂よりの剣岳の展望は、小窓尾根下部が見えるのみであった。コルまでグリセードで飛ばしブナクラ谷を下る。本谷そのものは傾斜がゆるく、また広く開けていて見通しがきくので、両側の斜面からのナダレにやられる心配はまずない。

夕方にはあがるだろうとの予想が見事にはずれ、折り強く降る雨に追われるように馬場島へと急ぐ。馬場島山荘のすこし手前で、こわれた橋の下の良く整地された砂地を見つけ天幕を張る。おかげで今夜は濡れないですみそうだ。夜、ささやかにコンパをやりひこしぶりに飲む酒がうまかつた。(渡辺 完治)

タイム 雪洞 6・15 1 猫又山 7・10 1 ブナクラの口 9・05 1 20 1 赤谷山マ頂 11・00 1 17 1 ブナクラの口 12・00 1 15 1 葛管地 14・25

☆四日(日) 雨 馬場島 1 富山

一晚中降り続く雨も全く関係ない、快適な夜を過ごした。今日も橋の外は雨が降り続いている。

傘をさして出発。途中で雨もやみ、ひたすら伊折へ向う。二時間も歩き続け、いやになりかけた頃やっと

書 今にも出発するバスにあわててかけ込んでホッとす。富山へ着き、ここで解散。レストランで、飯をふり返りながらおもしろい反省会を行ない、白かった毛勝三山への想いを馳せる。

帰京は琵琶湖と伊吹山をながめての、集りで速い旅であった。

今合宿では、残雪期の雪庇歩き、雪洞生活、雪災の下り等、当初予定していた白馬鑛東面を補う良い山行であったと思つ、又、今回初めて合宿のSLをやり、忘れがたい山行となった。(藤井 諭)

タイム 馬場島 7・10 1 伊折 9・00 1 富山 11・00

☆後記

比小川 正義

正月合宿を考慮しての白馬鑛東面にて定着形式で行つて予定であった今合宿であるが参加希望者台での検討で東面での活動範囲に疑問が考えられた為、リーダー判断にて今合宿を残雪期としての山、又、中堅会員の技術アップとリーダー養成に主眼を置きこの山城に変更を行った。

白馬でと志ざした参加者に申し訳けなく思うが毛勝

を縦走したことにより残雪期の山を、技術をこして生活等、見るどころ少くなかつたと思つている。残雪期のルートファンディング、パーティの統制、等今後の山行に生かしてほしい。

合宿であり、最高の時期と思われ今山行。山城変更等もあったが、参加者が少く感じるのは私だけだろうか。盛り上りを大事とし、今後の山行を拡大し実りあるものにと願う。

最後になってしまいました。出発に乗り上げ上野駅でのお見送り、また差入れをくださった会員の方、紙面をおかりしお礼申し上げます。

1667 富士山(雪上トレーニング)

期日 五月一八日(日) 晴れ

参加者 渡辺 比 藤井 比 中野 小川(比) 塚田 甲山

永井 秋葉 山崎 清水 時田 花井(比) 花

井柳 安富 菅沼 柳川 富樫 浦野 森本

上沼 島影 小堤 以上二二名

報告